



おーい石原君

いうのはまずいなど思っていないながら、こころにあるものだから、うっかりしてしまおうのが、あるいはもらしてからすぐ気がつくのが失言。それに対して、ぜんぜん悪いと思っていないでいうのが暴言です。本人はむしろ格好いいと思っているでしょう。

若い時にはほくもよく暴言を吐いたものです。人が顔をしかめるのを見るのが面白かった。

今の世の中で、失言しては謝っているのは大臣たち。もつぱら暴言で物議をかもしているのは石原都知事、あなたです。なにしろつまらないことばかりの世の中だから、暴言を聞いて痛快がる人たちもいるのでしょう。それで、ますます調子に乗って、数学の先生の藤原さんが聞いたら、顔をしかめるような品格のない発言を乱発しているのでしょうか。

有名になった「教も数えられないようなフランス語には、

国際語の資格はない」という暴言に、かっかしたフランス語の先生たちも多かったらしいですね。

若いころフランス語を勉強し、フランスに留学したこともあるほくは、「教も数えられないフランス語」というのが、71をソワサンテオンズ(60+11)、95をカトルヴァンカンズ(20の4倍に15)という数え方のことをいっているのだな、お石原君、少しフランス語を知っているね。あの暴言は、そのことを見せびらかしたかったところから起こったのか、と見抜きました。記者会見で、あなたは、記者たちに「フランス語で20はなんとという？ じゃあ90は」と逆質問して、記者が(ま、教養の不足した記者が多いことは驚きですが)正しく答えられないでもたもたしている、自分から正解をいって、満足そうでしたね。その顔を見てみると、わ、見せびらかしている、とほくにはよく見えました。だが、調子にのる

のはよくないですね。調子にのると、惨めな失敗をやりまます。タヒチなどの住民は、数を単純化して70はセツタント、80はユイタントという言葉を発明して数えていると、なにも知らない記者たちに話していましたが、あれはちよつとまますかかった。そういう数え方をしているのは、フランス語を喋るスイス人やベルギー人たちです。しかも70はセブタント、80はユイタントではなくオクタント、知ったかぶりをしていつてしまった後、間違いに気がついて、ばちばち瞬きしているのではないですか。

それに、タヒチなどの旧植民地の人たちの言葉を、とくとくと「ビジョン・イングリッシュつまり鳩の言葉というんだな」と述べていました。大勢の無知な人を、ウソをいつて煙に巻くのは楽しいですね。でも、記者の中に字引を引く人がいて、「英語にはビジョン・イングリッシュなんてありませんが」といわれないでよかったですね。植民地の人たちが、宗主国の言葉を耳で聞いて覚えて使っていたのがビジョン語、英語ならビジョン・イングリッシュです。ビジョンはビジネスを耳で聞いて覚えてビジョンと発音する中国人が多かったことから来るという一説がありますが、そのビジョンを、また耳で聞いてビジョン(鳩)のこと間違えたのが日本人です。それで、英語の辞書には書かれていないのに、カタカナ英語辞典には、ビジョン語ビジョン・ランゲージ(鳩の言葉)という項目があるのです。もしかししたら、若い時、カタカナ辞典のアルバイトで、この部分を担当したのが、石原さん、あなた

だったのじゃありませんか。

そんなことはどうでもいい。最近、共通一次体制の結果、英語は勉強するが、フランス語やドイツ語を勉強する学生が減ったことをほくは残念に思っています。都立大学で「ドイツ語の先生はたくさんいるのに、学生が数人しかいない。フランス語を勉強したいという人はゼロだ」といつておられました。あんなことオリンピック委員会に聞かれたらどうするのです。あなたが招致しようと考えておられるオリンピックは、フランス語も公用語。都立の大学でフランス語を学ばず人ゼロ、つまり、フランス語の通訳の養成も考えていないと知られたら、東京は本当にオリンピックを誘致したいのか、といわれますよ。ほくは国際語に本当にふさわしいのは、合理的で単純な、 에스ペラント 以外にはないと思っています。英語など、発音が難しく、お金の単位もガソリンの単位も、距離も、重さも、温度の単位も、複雑で、あなたの言い方だつたら、国際語の資格なしですね。あなたがそれを知らないはずはない。知っていることはひげらかすのではなく、チラッと見せるくらいがいいのです。冗談として、フランス語は国際語の資格がないねというのもいい。でも、そのあと少し間を置いてから「だが、英語はもつと国際語の資格がないね」といつたら、あなたは、人を傷つけず、品格もユーモアもある都知事として評判になったでしょうに。